

「主により頼む」

箴言3：5-12

■ 賛美

賛美は、私たちを元気にしてくれる素晴らしいものです。神様は、私たちを愛して下さっています。賛美するということは、私たちが神様を愛しますという心の表現です。賛美は、神様に告白できない言葉でも、なぜかすらすら言葉が出てきます。神様に向かって祈ることができないような心の状態だったとしても、賛美の歌詞を通して、心が変えられていきます。賛美を捧げるとき、神様を愛しますという愛の告白となり、神様と両想いの関係となって、神様も喜んでくださいます。また、私たちの心は、平安が溢れてきます。

今日、神様が居られる。その神様が、聖書を通してどんなラブレターを私たちに送って下さっているのかを聞いて、応えていきましょう。受け身ではなく、アクティブに神様の前に出ていきましょう。

■ 主に拠り頼む

箴言3章5節～12節は、神様に拠り頼め、神様を愛しなさい、神様を信じなさい。そうすれば、神様が豊かに愛して下さって祝福を与えてくださいます。というような聖書の内容です。これだけ私たちのことを思ってくださる神様のこと、もしくは、イエス様のことを考えると、私たちは幸せだということです。主が私たちにいったい何をなさって下さっているのか。また、私たちのことをどう思ってくださっているのかを知れば知るほど、主から離れなくなり、こんな方はいないんだということを、私たちは感じる事ができるのです。一番伝えたいことは、箴言3章5節の「心を尽くして【主】に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。」であり、どんなときも、とにかく、神様に頼りましょうということを言いたいのです。

申命記6章4～5節「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」主に拠り頼むとは、完全に主を愛します。委ねます。ということです。拠り頼むということは、愛するということです。

また、1コリントの手紙13章13節に「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」私たちが大切にしている3つ確信であり、それは「信仰」と「希望」と「愛」なのです。これは絶対に滅びることがありません。特に滅びないのは愛なのです。

信仰とは、主を信じる。より頼むことです。希望とは、神様が成し遂げてくださる。自分では出来ない事を神様が成し遂げてくださいます。愛は全てです。主が愛してくださったから、私たちが主を信じ、主に希望を持つことができるようになり、私たちが愛する者へと変わってくださるのです。聖書の御言葉は、私がそのようにあなたを変える。だから主に頼れと書いているのです。神様の意思が御言葉の中に入っているのです。

神様は、私を頼れ、そうすれば、私たちは悔い改めることができる。私が救いに行くと言って下さっているのです。このことは、私たちが本当に覚えておかなくてはいけないことなのです。

私たちの人生はどうかというと、これに反して、自分の悟りに頼って生きているのです。だから、毎回、御言葉を聞かなければならないのです。箴言22章19～21節「あなたが主に拠り頼むことができるように、私はきょう、特にあなたに教える。あたしはあなたのために、勧告と知識についての三十句を書いたではないか。これはあなたに真理のことばの確かさを教え、あなたを遣わした者に真理の言葉を持ち帰らせるためである。」

神様は、私たちが何度言っても聞き入れないから、忘れないように、また、あきらめないで言葉をくださっています。私たちが、イエス様のことがわかるように、イエス様のことを感じる事ができるように、また、神様を信じる事ができるように、私たちに真理の言葉を与えて下さっています。だから聖書を読んで、神様の言葉に触れ、主に拠り頼むものとなっていきましょう。

■ 主に拠り頼む3つのステップ

箴言22章17～19にその秘訣が書いてあります。「耳を傾けて、知恵のある言葉を聞け。あなたの心を私の知識に向けよ。これらをあなたのうちに保つなら、楽しいことだ。これらをみな、あなたのくちびるに備えておけ。あなたが主に拠り頼む事ができるように、私は

きょう、特にあなたに教える。」

1. 神様の声を聞く
2. 保つ
3. 主に拠り頼む

調子が良いとき、気分が良いときだけでなく、私たちが苦しいとき、平安でないとき等、どんな状況にあっても、まず神様の御言葉を聞くことです。それを保ち、そして、主に拠り頼むことです。神様は私たちのことを絶対的な愛を持って守り、愛してくださっています。

■ 神様の喜び

主の祈り「天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄とは、限りなく汝のものなればなり。アーメン」

神様は、私たちのことを愛しておられるので、私たちの声が聞きたいのです。

主の祈りは、天にまします我らの父よ。から始まります。神様は、私たちから、私のお父さんはあなたですという声を聞きたいのです。何か別の物だったり、本当のお父さんでないものを、なぜ、お父さんと言うのか。神様は、「私が全部備えているのにどうして他の物を求めるのか。わたしがお父さんだよ。だから、私をお父さんと呼んで、声を聞かせてほしい」と言っているのです。

神様は、私たちの声を聞きたいと願っておられます。愛する我が子の声を聞くことは神様にとって特別な喜びとなるのです。

■ 誰に頼るべきか

神様にとって、愛する我が子の声を聞くことは神様にとって特別な喜びとなる。と言いました。もし、私たちが神様の声を聞いて、拠り頼み、主を教えてください。賛美します。礼拝します。と神様に語りかけたとき、神様はすごく喜んでくださるのです。

神様は、心からの声を聞きたいのです。心からの思いが知りたいのです。それが伝わるときに神様の喜びが伝わり、私たちが変えられていくのです。

また私たちが主により頼むことは、人が成長して自立することを意味します。例えば、親しか頼ることができない子が、ひとりで電車に乗って目的地に行くのに、どうすればよいかわからないとき、駅員さんに、どこまでの切符を買って、どの電車に乗れば良いか聞くと、助けてくださいます。自力では電車に乗ることはできませんが、助けを求めれば不可能になります。このように、自分に必要な助けを理解し、問題を解決してくれる適切な相手に助けを求める事ができることが自立するということなのです。

私たちが頼るところは、唯一神様なのです。

さいごに

私たちのことを本当に愛し、助けて下さって、いつも私たちを見守って下さっているのは、正に神様です。「私を頼りなさい。するとわかるから。」「自分の悟りに頼るな。」「わたしに拠り頼め。するとわかるから。」

主に拠り頼むとき、私たちがどのような状況にいるかは関係ないのです。立派とか平安かどうかは関係なく、主に拠り頼むことです。そこに神様の働きが溢れてきます。その時、主が成し遂げてくださいます。私たちの中の愛が愛されていることが回復し、私たちが愛せるものになっていきます。なぜなら、最初から主が私たちが愛しておられるからです。

私たちが悩むとき、悲しむとき、行き詰るとき、なんとか自分で頑張ろうとするのではなく、主に拠り頼むということです。そうすると、主が成し遂げてくださいます。

(要約者:西寄 達也)

(2023年9月24日)